



**堺化学工業株式会社**

**2023年3月期**

# **中間決算説明会**

**2022年11月29日**

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

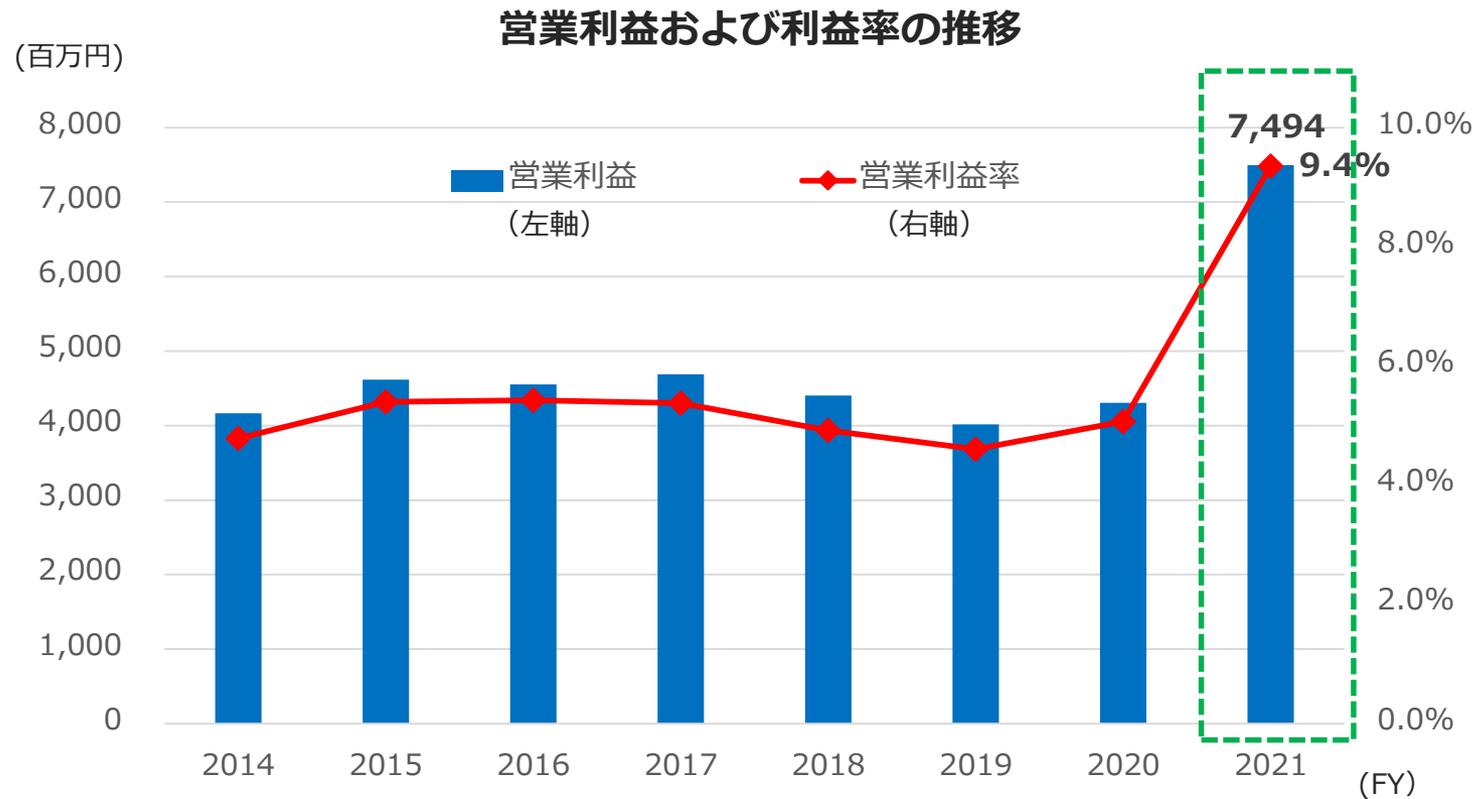
# 目 次

1. トピックス（業績の振り返りと今後について）
2. 本業績説明のポイント
3. 2023年3月期中間決算概要・詳細
4. 2023年3月期業績予想
5. 株主還元

# 1. トピックス（業績の振り返りと課題について）

---

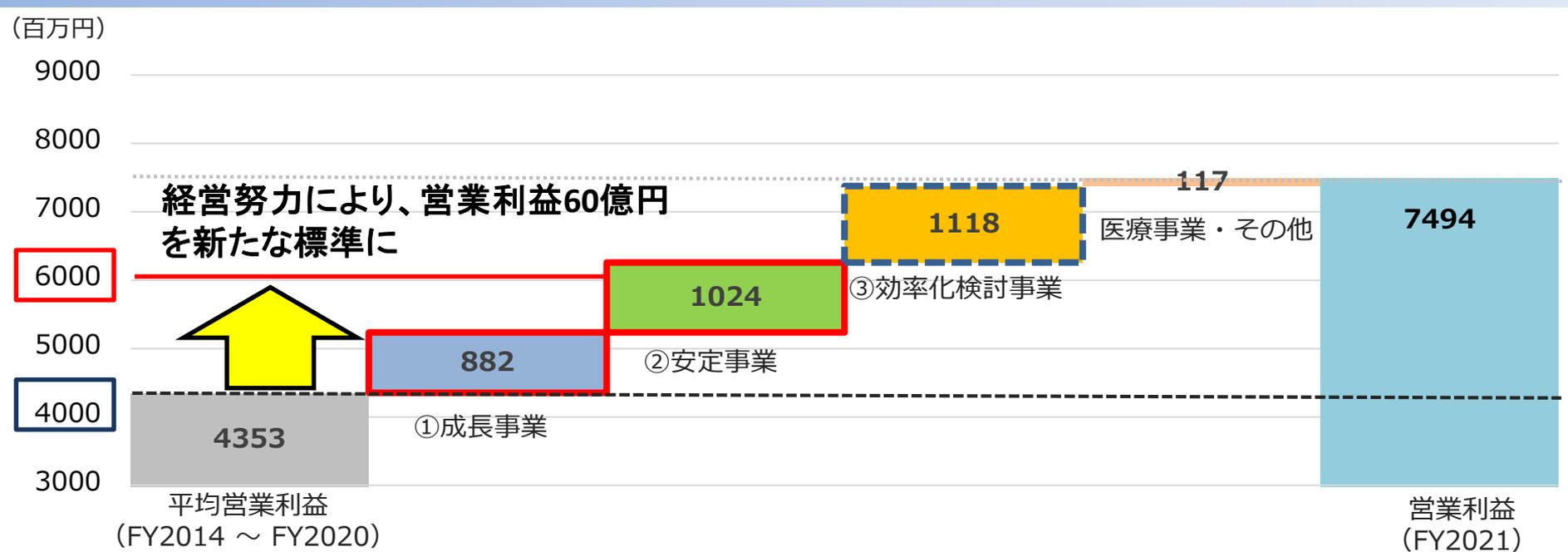
# 2021年度の営業利益は40億円台の壁を超えた



営業利益額 40億円台 ⇒ 70億円台

営業利益率 5%前後 ⇒ 9%台 へと飛躍

# 2021年度の営業利益伸長の内訳

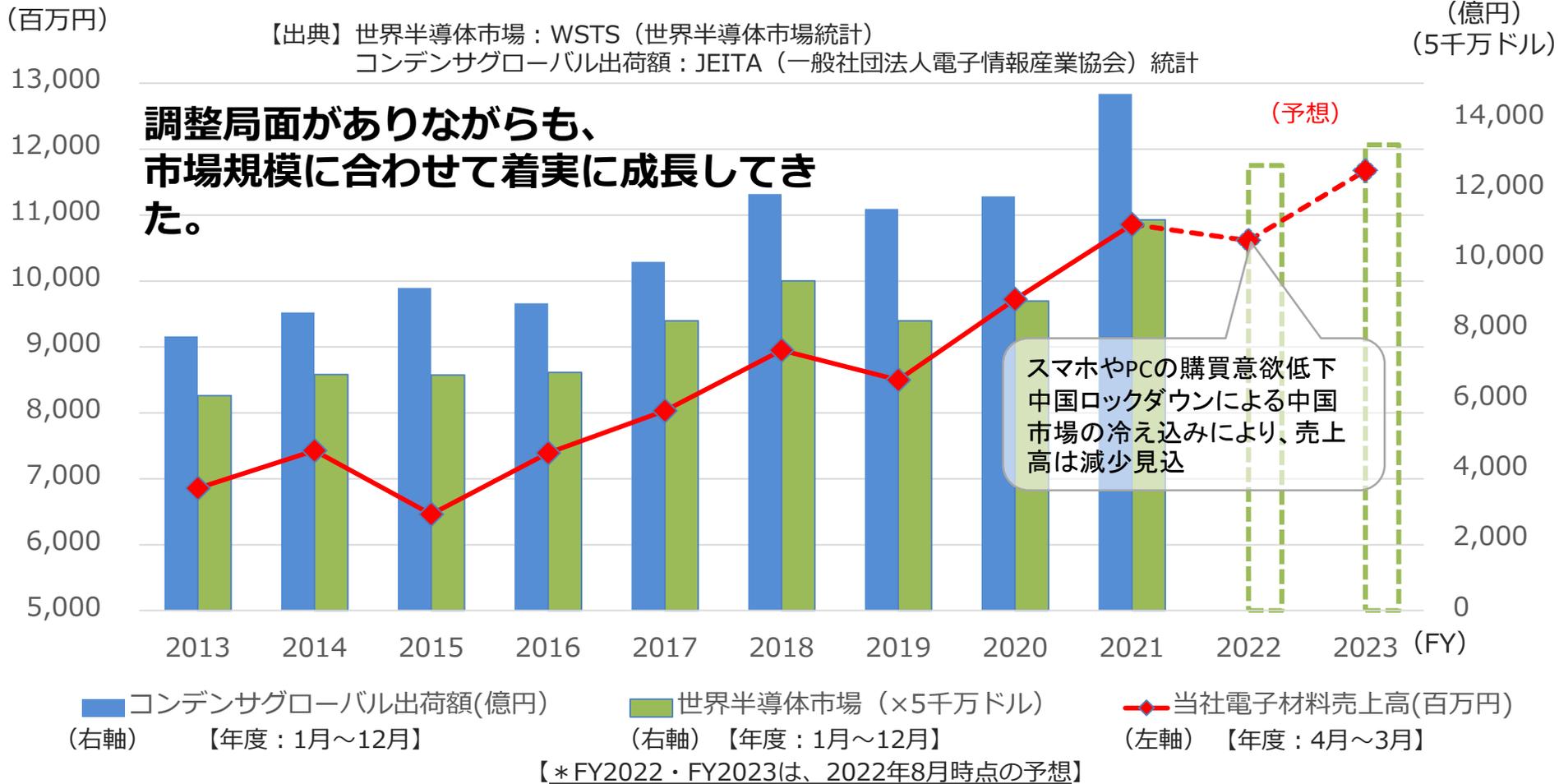


※ ① 電子材料/化粧品材料 ② 有機化学品/受託加工/衛生材料 ③ 酸化チタン・亜鉛製品/樹脂添加剤/触媒

## ①成長事業の軌道化+②安定事業の底上げで 約20億円の増益を確保

### 【さらなる成長に向けて】

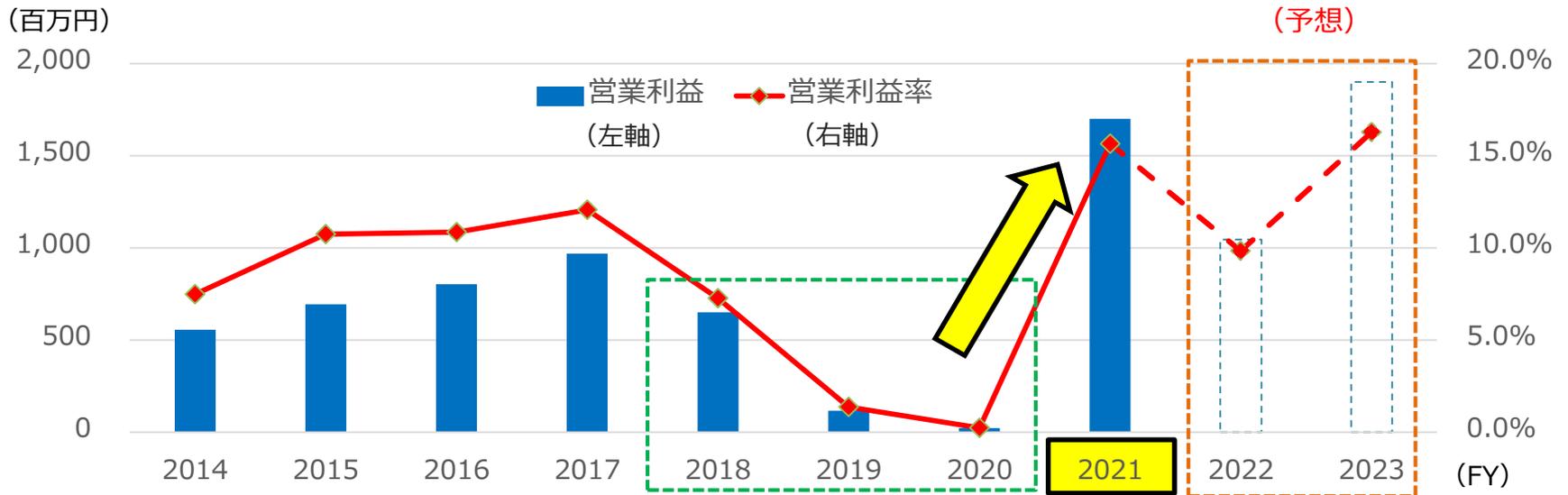
- ・ 市況の影響を受けやすい③効率化検討事業で、安定して収益を上げられるよう、見直しを進める
- ・ 成長事業をさらに拡大させる



## 【今後も電子材料の成長が期待できる背景】

電気自動車の普及、自動運転技術の進化、通信速度の高速化、メタバースやDXの進展により半導体及びコンデンサ市場が拡大していく見込みだから。

# 電子材料の不振要素は2021年度に払拭



FY2018：誘電体は、かつてのハイエンド品が陳腐化し、新製品の開発遅れにより競争力が低下

FY2019：誘電体材料が、需要増を見込んだ先行投資により償却負担が増加し、利益率が低下

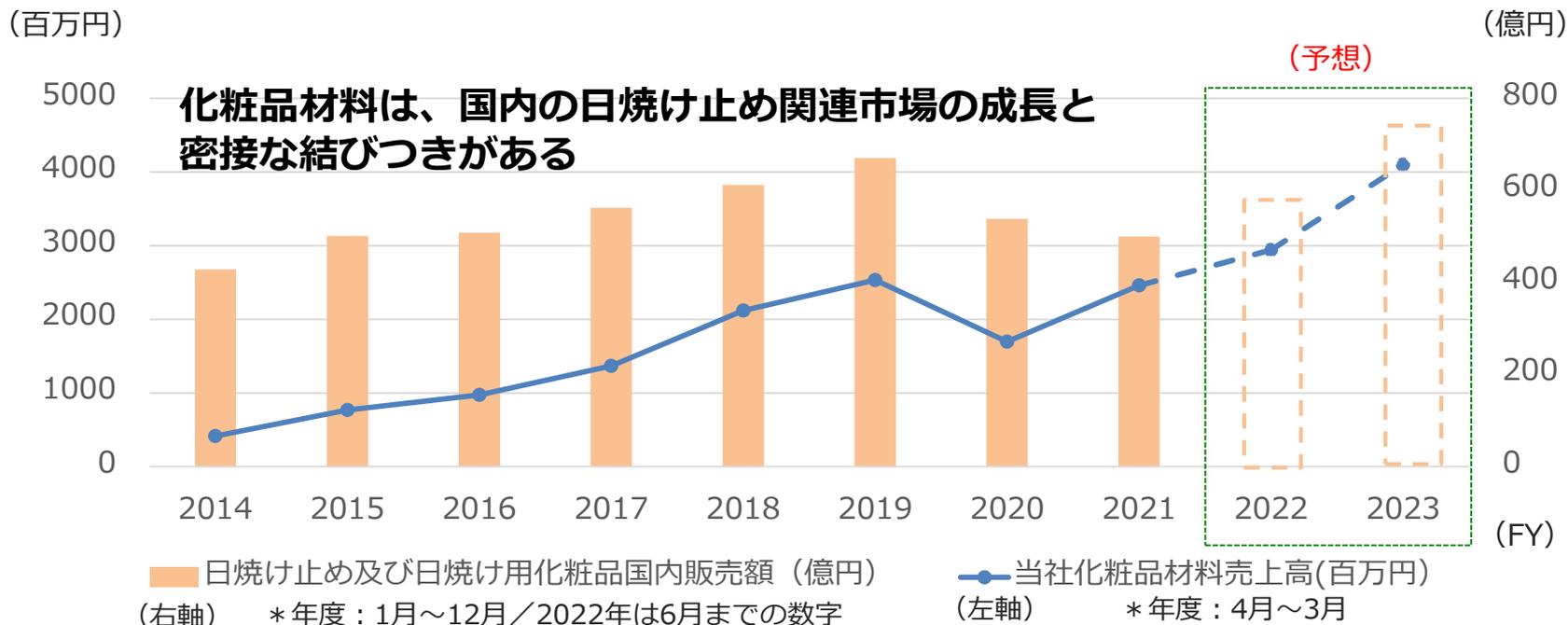
FY2020：テレワークの普及によって汎用品の出荷割合が増え、製品構成が悪化(利益率が悪化)

FY2021：①設備増強した誘電体材料の工場稼働率が向上

②利益率の高い製品の販売量が伸びるとともに、価格是正も実り、製品構成が改善

③誘電体ハイエンド品の量産販売を開始

FY2022以降：需要減によりは一時的に落ち込むが、中長期的には成長する見通し



出典：経済産業省生産動態年表（日焼け止め及び日焼け用化粧品国内販売額）

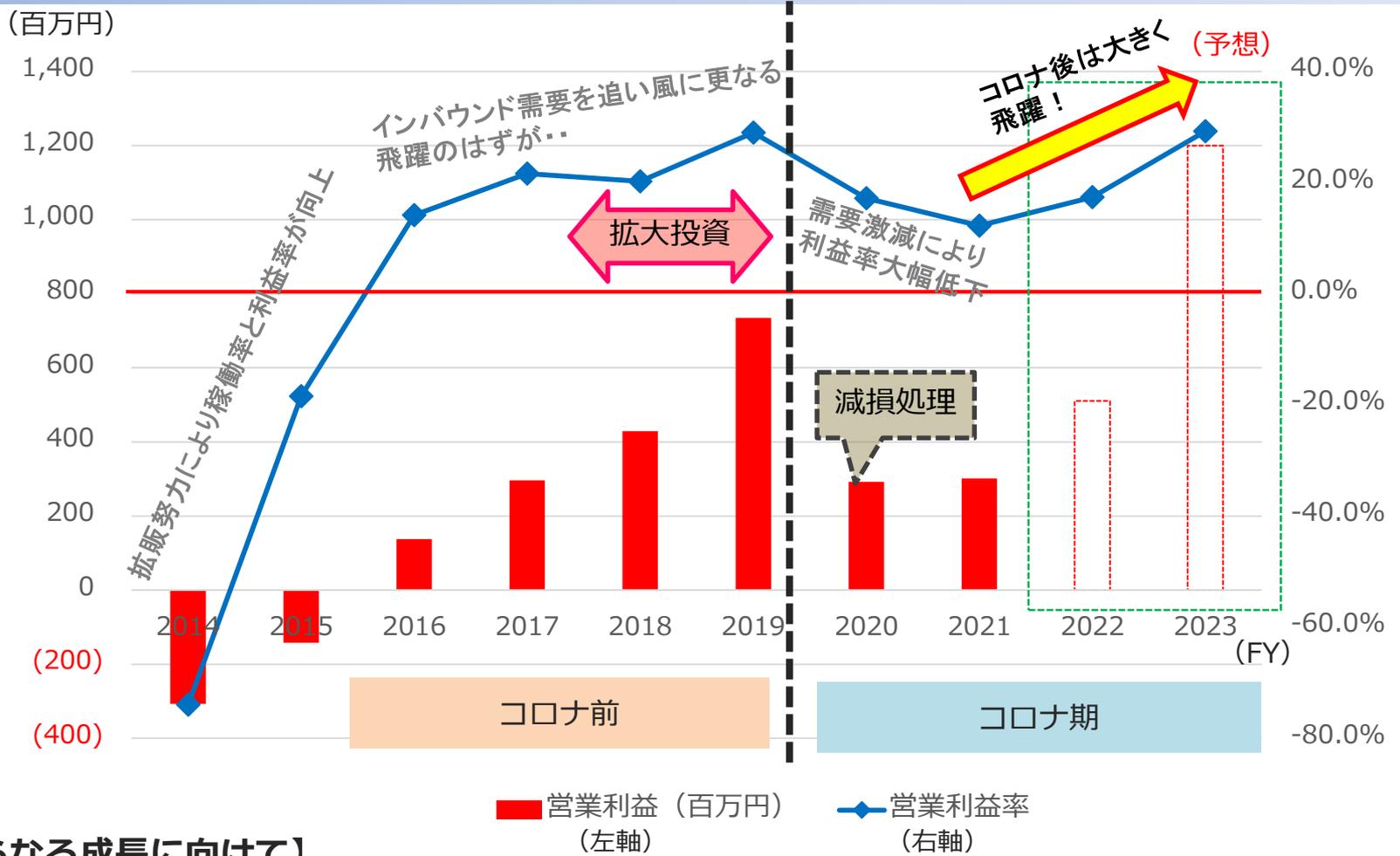
- ・インバウンド需要を追い風に、順調に売上を伸ばしていた  
⇒ 新型コロナウイルスによるインバウンド需要消失により、成長に大幅な遅れ

## 【さらなる成長に向けて】

**FY2022以降は、以下の動きを業績拡大の好機と捉え、事業展開に取り組む**

- ① 外出規制のさらなる緩和
- ② インバウンド需要の回復
- ③ 有機系から無機系サンスクリーン剤への置換の拡大（環境意識の高まり）

# 化粧品材料の営業利益は、コロナで落ち込んだが回復傾向



【さらなる成長に向けて】

増産体制は整備済み

期待されるコロナ後の需要回復などの機会を活かし、中長期的な視点で市場開拓と拡販に努める



## 有機化学品

用途：プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・有機イオウ化合物 … **メガネレンズの屈折率向上**、  
コンクリート混和剤としても
- ・有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・医薬品原薬・中間体

用途例



有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。

## 受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など



さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。

## 衛生材料

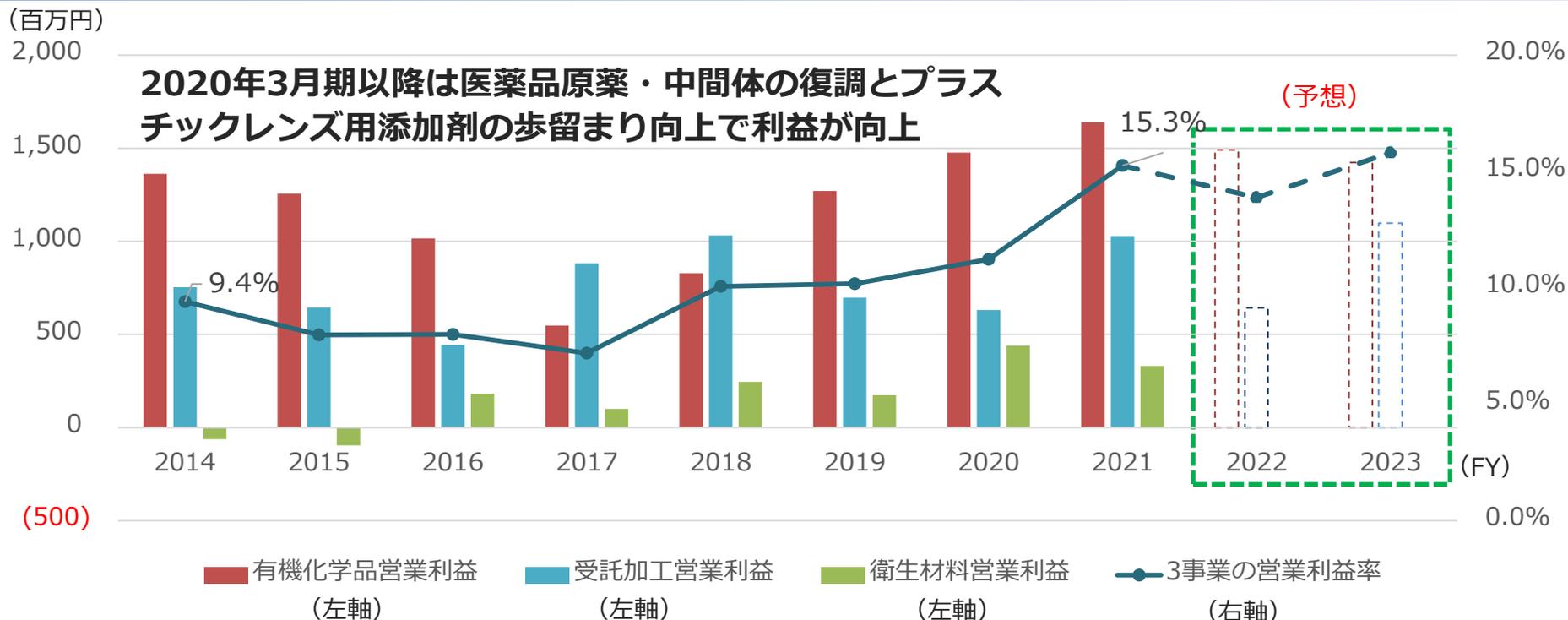
用途：おむつ、生理用品

- ・通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

用途例



海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

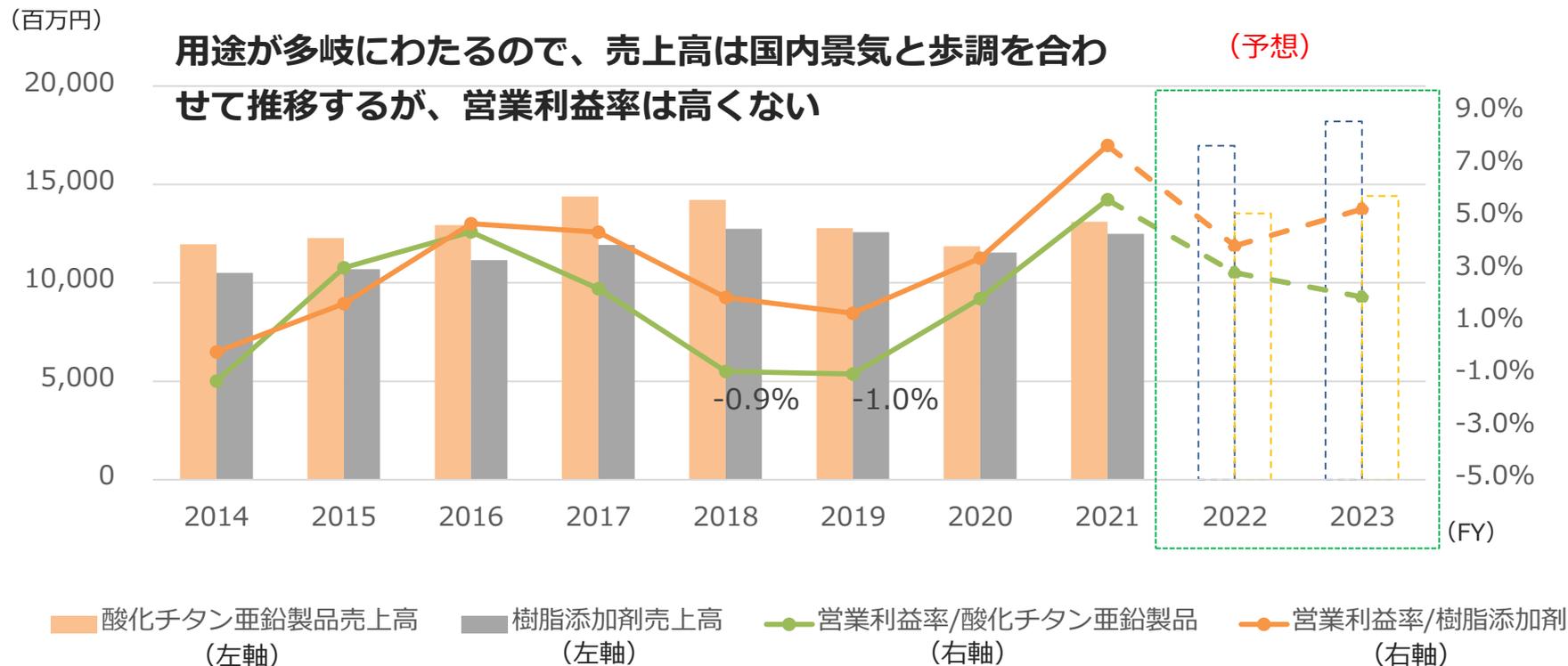


- ・ 医薬品原薬・中間体は、利益率が高く、数年先まで受注が確定
- ・ プラスチックレンズ添加剤の歩留まり向上で利益率が改善

## 【さらなる成長に向けて】

- ・ 医薬品原薬・中間体事業のCDMO（製造開発受託）への進出
- ・ プラスチックレンズ添加剤の生産能力増強の検討

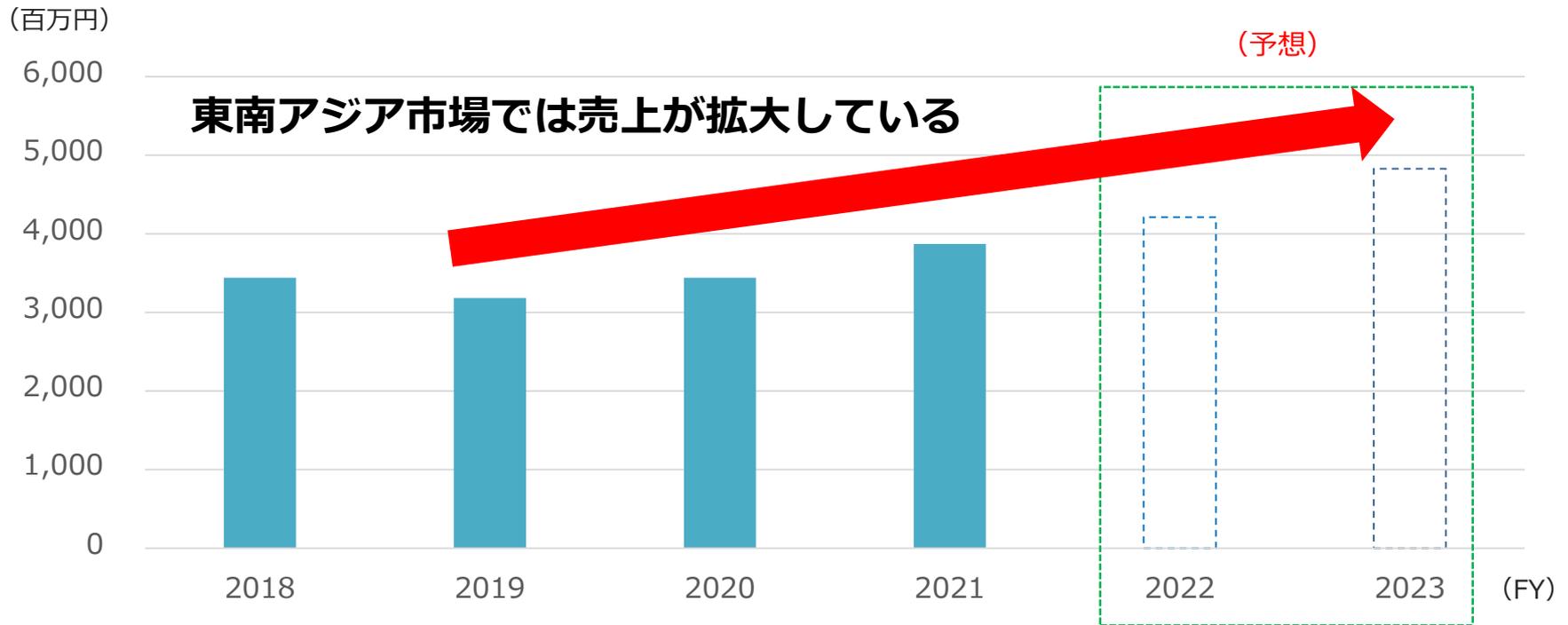
# 酸化チタン・亜鉛製品・樹脂添加剤はコスト削減と効率生産がカギ



## 【今後について】

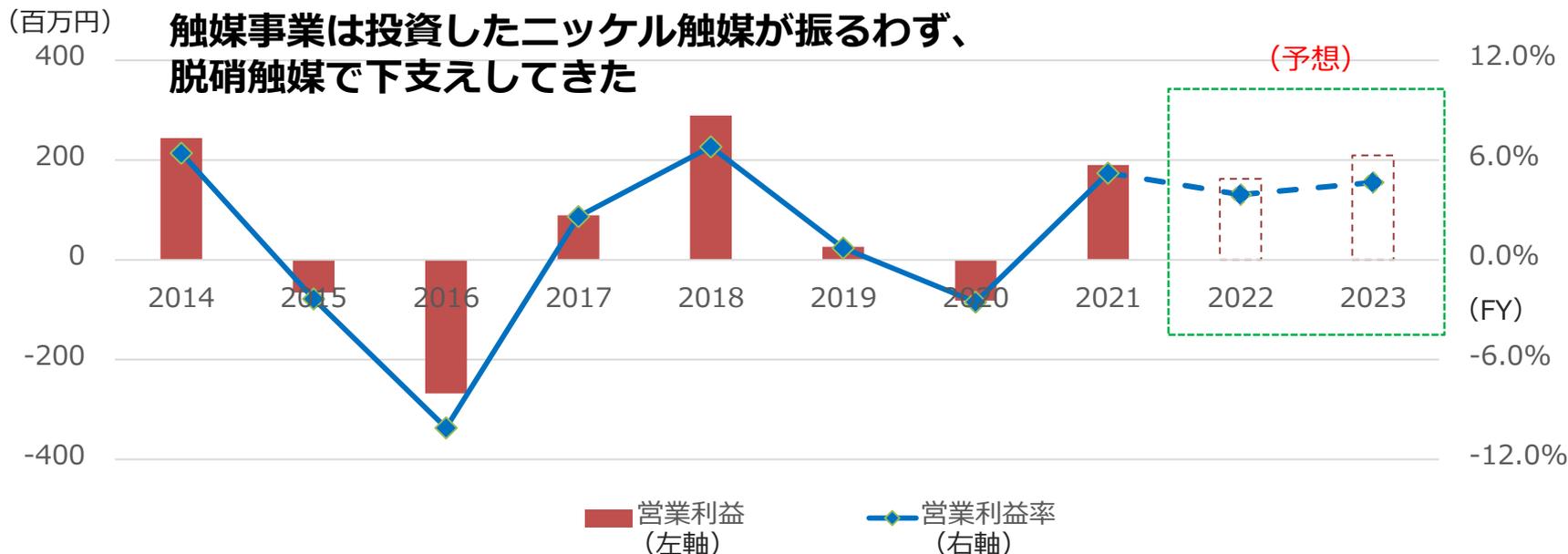
- ・ 足元の原燃料高は、価格是正で凌ぐ。
- ・ 高付加価値品の割合を増やし、収益性の低い製品を整理することにより、国内景気の後退局面でも営業利益の下振れを抑え、利益の安定性を高めていく

タイ・ベトナム現地子会社の売上高推移



- ・ 東南アジア市場は中長期的な経済成長が期待され、インフラ関連（建材・管材等）の需要が堅調に推移すると見込まれる
- ・ タイの法制化（水道水への鉛溶出規制）は、非鉛安定剤を扱う当社にとって追い風となる

# 触媒事業は利益創出力の立て直しが急務

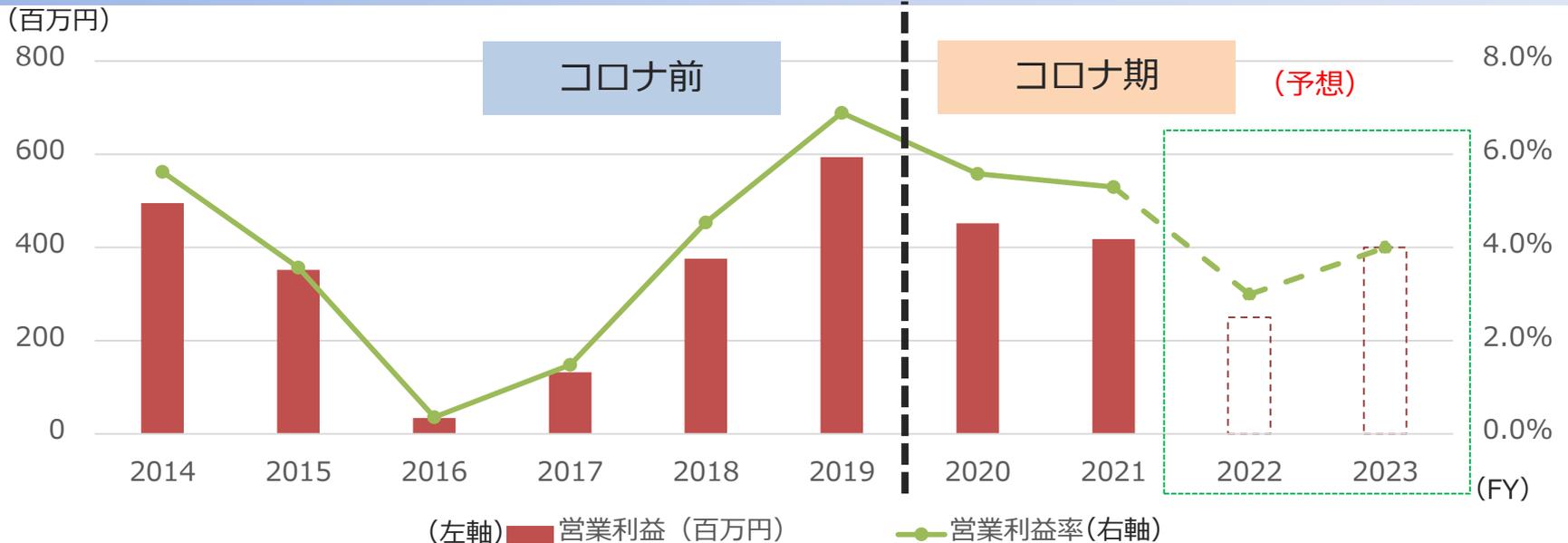


- ・水素添加樹脂用ニッケル触媒は稼働率が上がらず、利益を生み出さない
- ・脱硝触媒は、完全受注事業ゆえ需要がばらつき、操業が安定しない

## 【今後について】

- ①低収益製品の撤退、生産体制のスリム化を検討し、効率化を図っていく  
⇒食品用ニッケル触媒からの撤退（今期中に完了予定）  
⇒水素添加樹脂用ニッケル触媒生産拠点の集約検討
- ②カーボンリサイクルに貢献する触媒材料に注力し、新たな成長の柱にする

# 医療事業は、継続的な薬価引き下げとコロナが大きく影響



## 【コロナ前】 (FY2015～FY2019)

- ・薬価引き下げに加え、潰瘍用剤アルロイドGがジェネリックの普及で大きくシェアを失った。
- ・その後、競合のジェネリック撤退し、内視鏡洗浄機器や検査事業などの台頭もあり、利益が回復。

## コロナ期 (FY2020～FY2021)

- ・薬価引き下げの継続
- ・定期健診延期によるX線造影剤の減、
- ・医療機関への営業活動自粛による医療機器販売減
- ・風邪予防が徹底され家庭薬の不振

## 今後は、薬価切り下げやジェネリックの影響を受けにくい新規事業に注力

- ① サプリメント事業
- ② 医療機器の適用領域の拡大 (耳鼻科領域へ進出)
- ③ 新規医療機器システム構築

# 投資家の皆様から多く寄せられる課題

- ① 事業ポートフォリオの見直しに向けて
- ② 医療事業の位置づけ

## 2. 本業績説明のポイント

---

# 本業績説明のポイント

## 1, 2023年3月期中間業績について

### 【化学事業】

- ① 価格改定の浸透に加え、前期からの在庫の恩恵もあり、最近の原燃料高に対応。
- ② 電子材料は、中国ロックダウンの影響などを受け出荷数量が減少し、減益。
- ③ 化粧品材料は、前年同期の底からは脱出し、増益。
- ④ 有機化学品は、上半期に受注が集中した前年に比べて大きく減益。

### 【医療事業】

- ① 半導体不足の影響を受け、主力医療機器（内視鏡洗浄消毒器）の製造・販売が低調。
- ② サプリメント事業は堅調。

## 2, 2023年3月期下期業績見通し

更なる原燃料価格の高騰と、円安による輸入原料のコストアップ、半導体市況の回復の遅れも見込まれ、業績を下方修正する。

# 3. 2023年3月期中間決算概要・詳細

---

# 2023年3月期中間決算業績概要（対前年同期）

（百万円）

	2021.9		2022.9		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	39,905	—	42,694	—	2,788	7.0%
営業利益	4,356	10.9%	3,267	7.7%	▲ 1,089	▲25.0%
経常利益	4,599	11.5%	3,830	9.0%	▲ 769	▲16.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,180	8.0%	2,871	6.7%	▲ 309	▲9.7%

## ◆増収要因

価格改定の浸透により、増収。（酸化チタンや樹脂添加剤製品が中心）

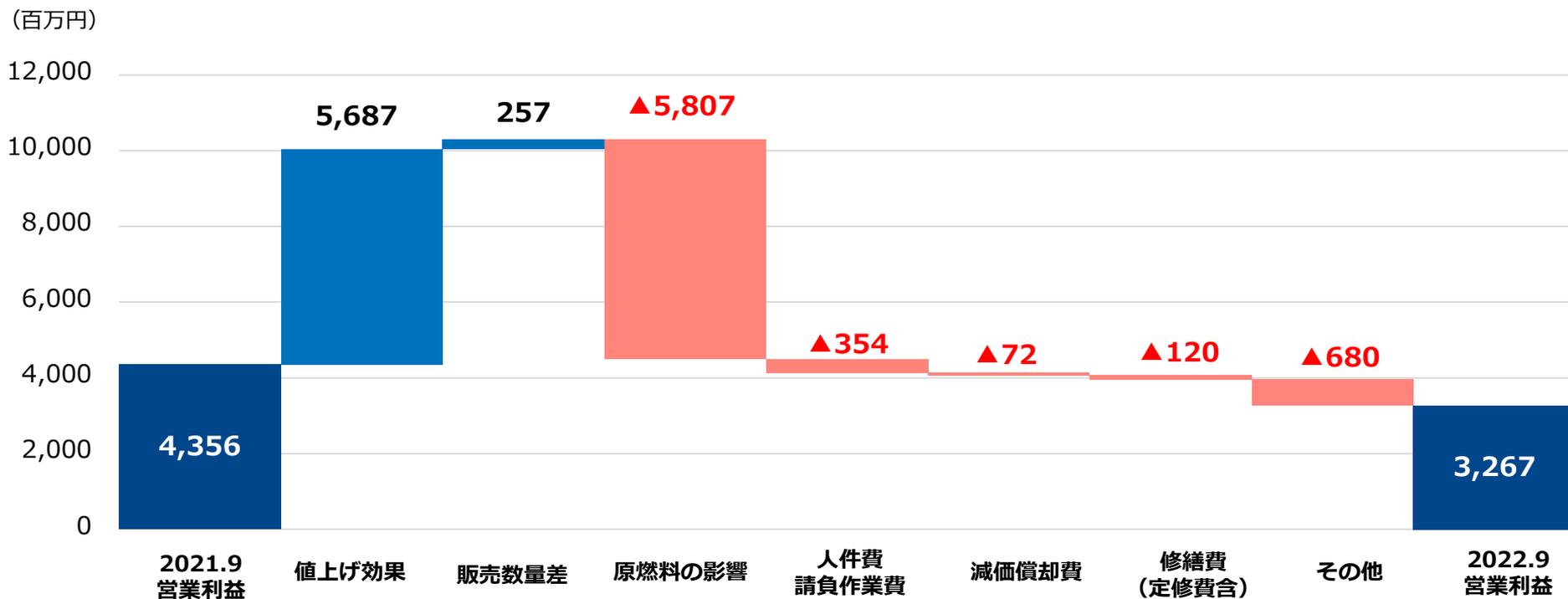
## ◆減益要因

次ページで詳細を説明。

## ◆補足

ドル建て海外投資での為替差益（497百万円）を計上

# 営業利益増減要因



- ・ 原燃料の高騰は、前期からの在庫の恩恵もあり、価格改定努力により相殺できた。
- ・ 人件費/請負作業費が増加  
⇒ 従業員賃上げと役員賞与支給のため。
- ・ 「その他」のうち、有機化学品で▲352百万円。  
⇒ 特に医薬原薬中間体は、上半期に受注が集中した前年に比べて大きく減益となった。

# 事業別売上高・営業利益（対前年同期比）

		2021.9	2022.9	増 減	
化学事業	売上高	35,809	38,572	2,763	7.7%
	営業利益	5,101	4,163	▲ 938	▲18.4
医療事業	売上高	4,096	4,122	25	0.6%
	営業利益	233	240	7	3.3%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 977	▲ 1,136	▲158	—
合計	売上高	39,905	42,694	2,788	7.0%
	営業利益	4,356	3,267	▲ 1,089	▲25.0%

(百万円)

## ◆化学事業:増収減益

価格改定の浸透で増収も、有機化学品(医薬原薬中間体)の前期実績からの反動や、前期業績を牽引した電子材料の減速もあり、減益。

## ◆医療事業:増収増益

既存事業は苦戦中。

しかし、サプリメント事業の好調や医療機器の一部前倒し出荷があり、増収増益。

# 貸借対照表：棚卸資産が大幅に増加した

連結貸借対照表	2022.3	2022.9	増減
<b>流動資産</b>	65,496	70,520	5,023
現預金	10,800	11,893	1,093
<b>棚卸資産</b>	23,110	28,218	5,106
<b>固定資産</b>	58,423	57,842	▲ 580
有形固定資産	48,134	47,648	▲ 485
無形固定資産	1,519	1,406	▲ 112
投資その他の資産	8,769	8,787	17
<b>資産合計</b>	123,919	128,362	4,443
<b>流動負債</b>	26,771	29,130	2,358
<b>固定負債</b>	14,439	13,429	▲ 1,010
<b>負債合計</b>	41,211	42,559	1,347
<b>純資産</b>	82,708	85,803	3,095
<b>負債・純資産</b>	123,919	128,362	4,443
自己資本比率(%)	63.6	63.6	—
有利子負債(合計)	16,958	18,620	1,662

- 背景：① 景気の鈍化による製品在庫量の増加  
 ② 電子材料向けなどの重要な原料を前倒しで購入（サプライチェーン混乱リスクの回避）  
 ③ 製品・原料の単価上昇

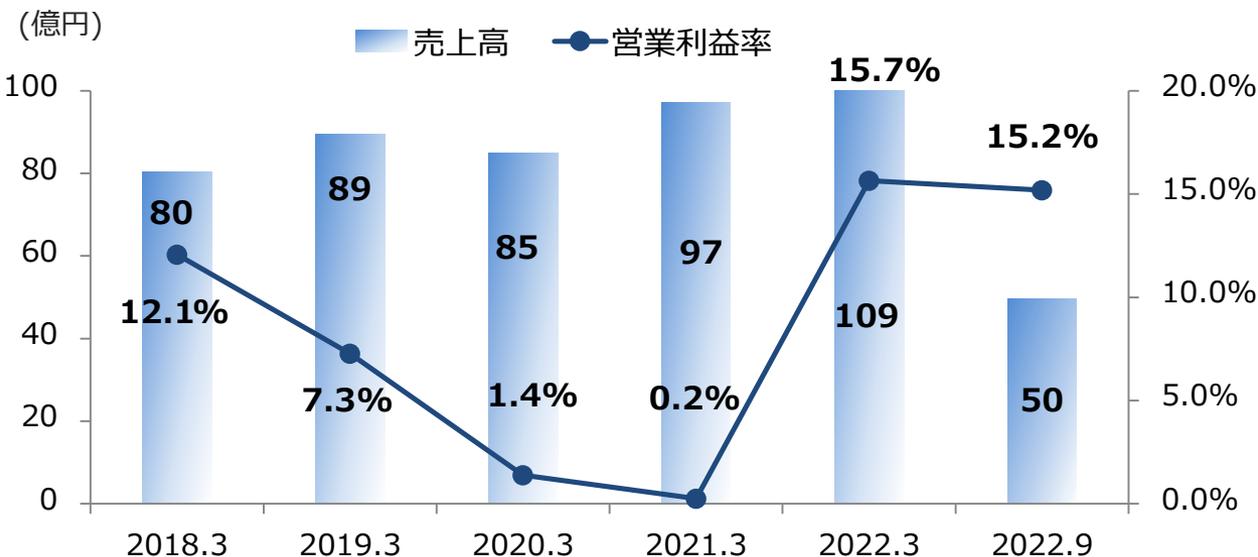
# キャッシュフロー：営業CFが大きく減少した

	2021.9	2022.9	増減
期首現金残高	11,153	10,549	▲ 603
税前利益	4,537	4,218	▲ 318
減価償却	2,107	2,191	83
棚卸資産	▲ 509	▲ 4,860	▲ 4,351
その他	▲ 752	▲ 427	325
<b>営業CF</b>	5,383	1,122	▲ 4,261
設備投資	▲ 3,837	▲ 1,319	2,518
株式売却	128	181	52
その他	▲ 109	▲ 147	▲ 38
<b>投資CF</b>	▲ 3,818	▲ 1,285	2,533
<b>FCF</b>	1,565	▲ 163	▲ 1,728
<b>財務CF</b>	▲ 1,025	1,006	2,032
期末現金残高	11,774	11,667	▲ 107

(FCF = 営業CF + 投資CF)

棚卸資産の増加により、営業CFが大きく減少し、FCFもマイナスに転じた。

# 電子材料



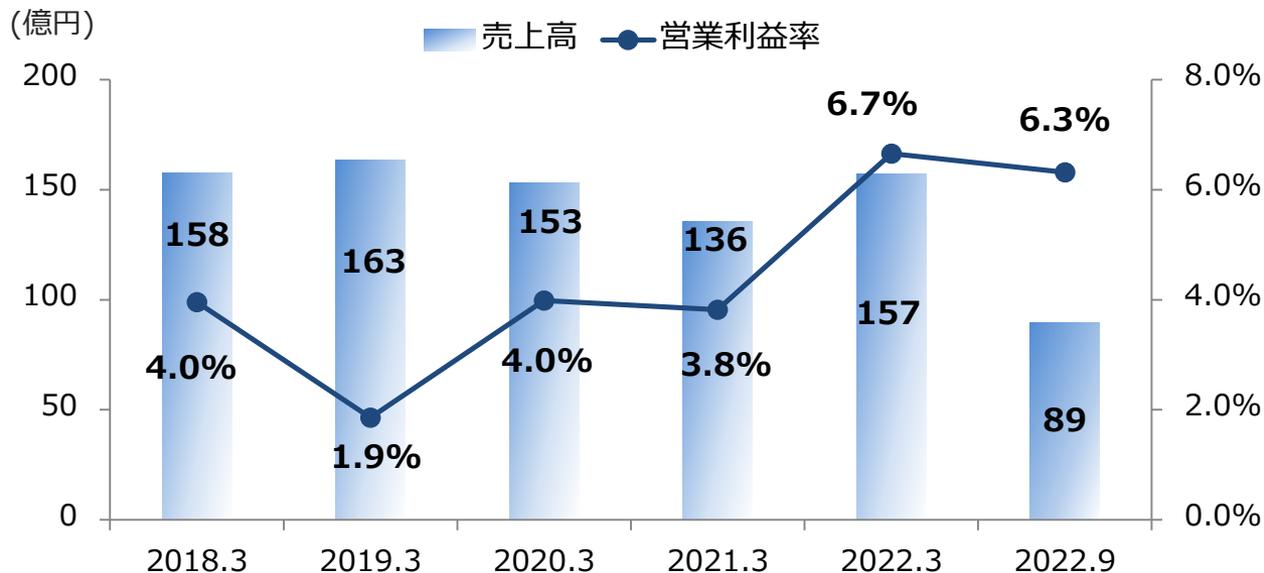
● 前年同期比較 (百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	5,087	4,956	▲ 131	▲ 2.6%
営業利益	892	753	▲ 139	▲ 15.6%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 出荷数量が減少した。(▲16.0%)  
中国ロックダウンや、パソコン・携帯電話などの民生用機器の市場の鈍化などにより出荷量が減少。誘電体（チタン酸バリウム）・誘電体材料（高純度炭酸バリウム）ともに、低迷した。
- 誘電体ハイエンド品は、概ね堅調に推移した。

# 酸化チタン・亜鉛製品



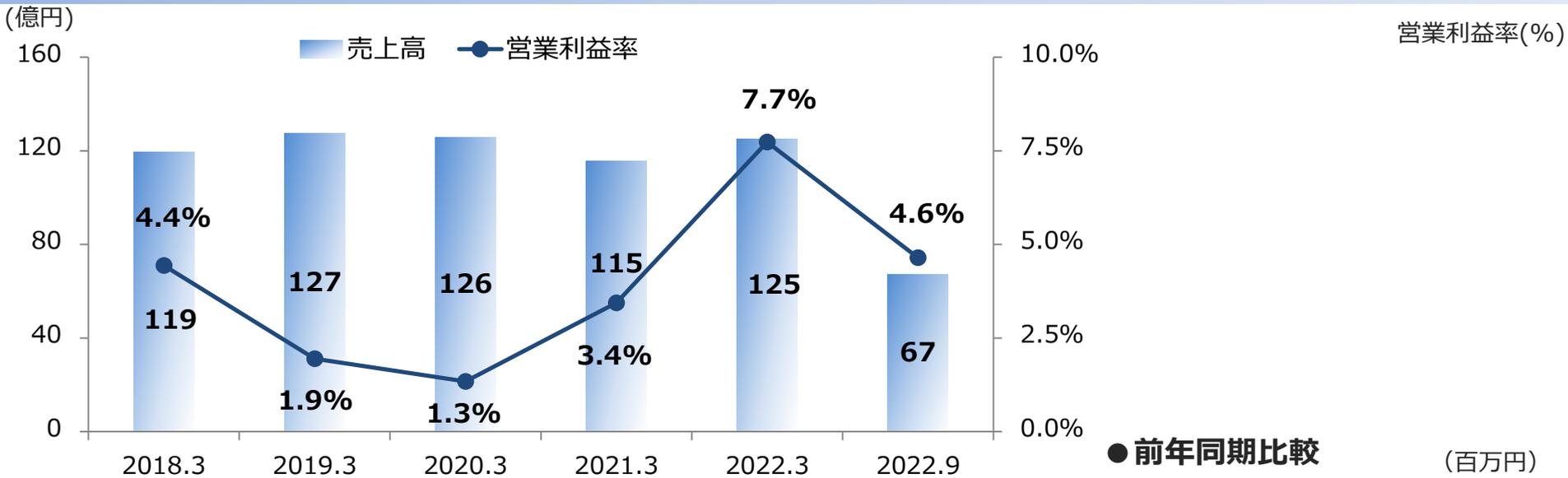
●前年同期比較 (百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	7,491	8,945	1,454	19.4%
営業利益	461	565	104	22.5%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 化粧品材料：国内外ともに需要の回復がみられ、増収増益となった。  
特に営業利益は、前年同期比+107.1%となった。
- 酸化チタン：価格改定の浸透で増収も、更なる原燃料のコスト増により、減益となった。
- 亜鉛製品：亜鉛建値の高騰（前年同期比+44.9%）と、堅調な需要により、増収増益となった。

# 樹脂添加剤



● 前年同期比較 (百万円)

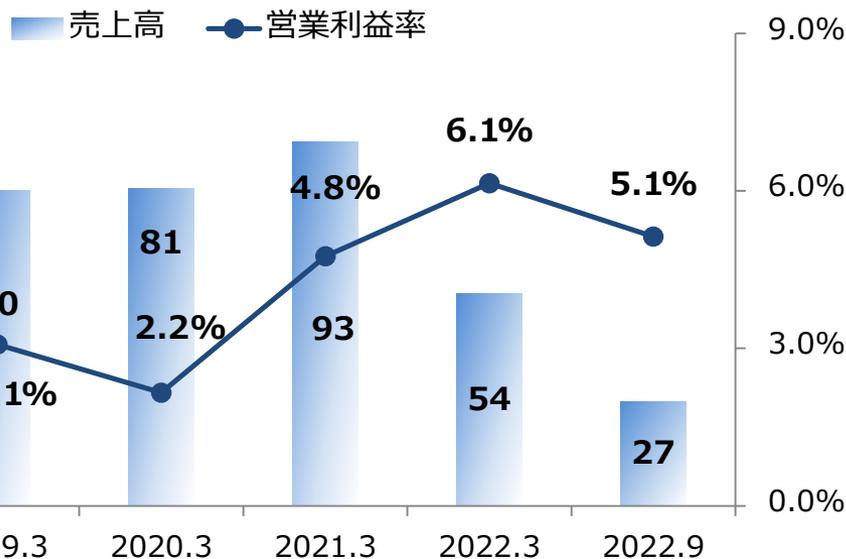
	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	6,209	6,712	503	8.1%
営業利益	562	312	▲ 250	▲ 44.5%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 国内向けは、半導体用設備向け工業板を除く、住宅や自動車関連向けが低調に推移した。また価格改定が浸透したが、更なる原燃料のコスト増により、増収減益となった。
- 海外向けは、自動車の減産によるワイヤーハーネス向けハイドロタルサイトが低調に推移した。灌漑用設備向け予算の縮減による公共工事の減少により、非鉛安定剤が低調に推移した。価格改定は国内同様に浸透したが、更なる原燃料のコスト増により、増収減益となった。

# 衛生材料

(億円)



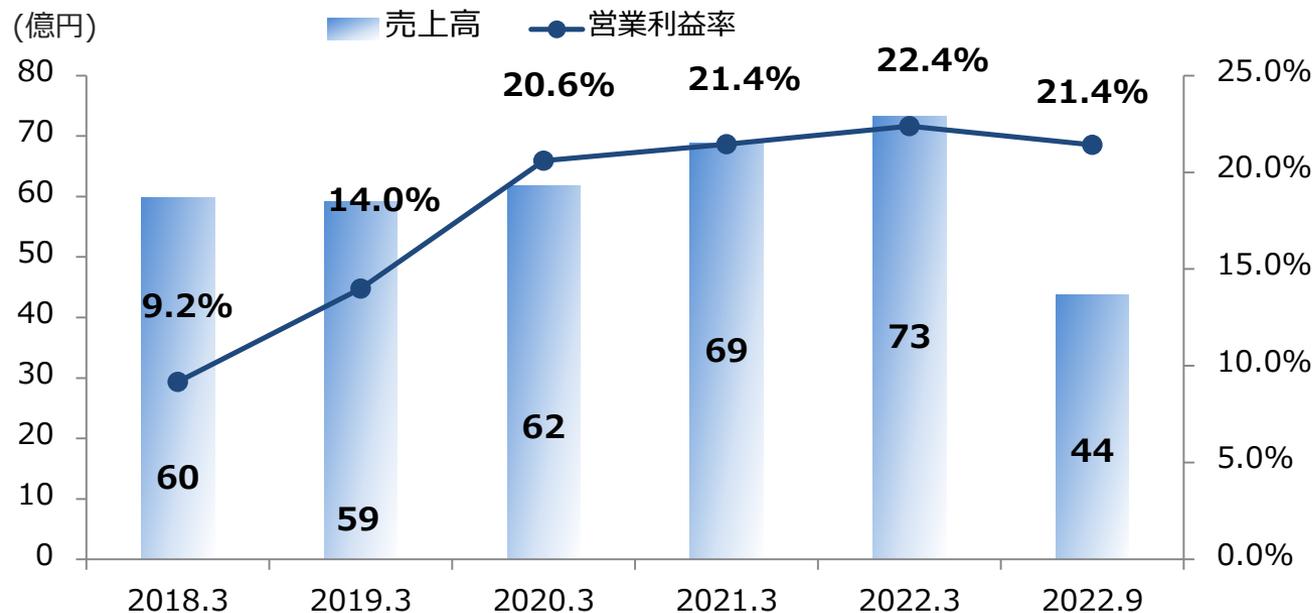
● 前年同期比較 (百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	2,507	2,652	145	5.8%
営業利益	152	136	▲ 16	▲ 10.5%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 販売面は、市場が堅調に推移し増収となった。
- 一方利益面は、原燃料高とインドネシア現地法人の輸出運賃の高騰により、営業利益率が低下し、減益となった。

# 有機化学品



● 前年同期比較

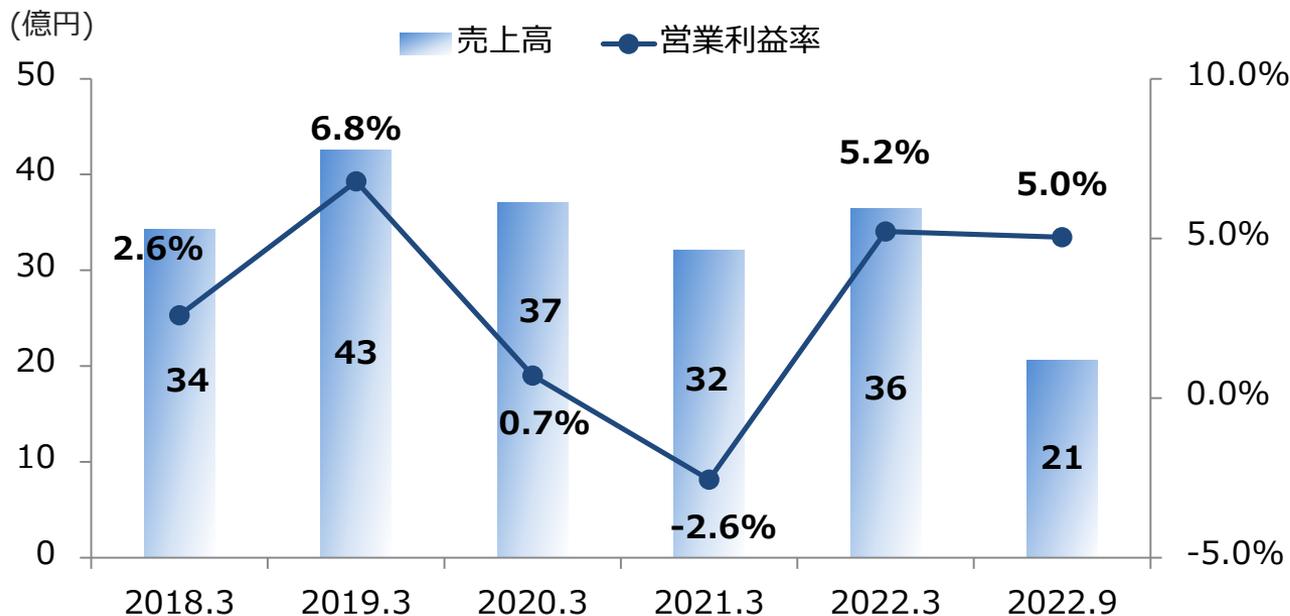
(百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	4,422	4,383	▲ 39	▲ 0.9%
営業利益	1,291	939	▲ 352	▲ 27.3%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 医薬品中間体の出荷数量が増加したが、前期好調だった原薬出荷がなかったため、減収減益となり、これが響いて本セグメント全体が減収減益となった。
- なお、チオ製品は、プラスチックレンズ向けが好調なうえ、価格改定も奏功し、増収増益となった。

# 触 媒



● 前年同期比較

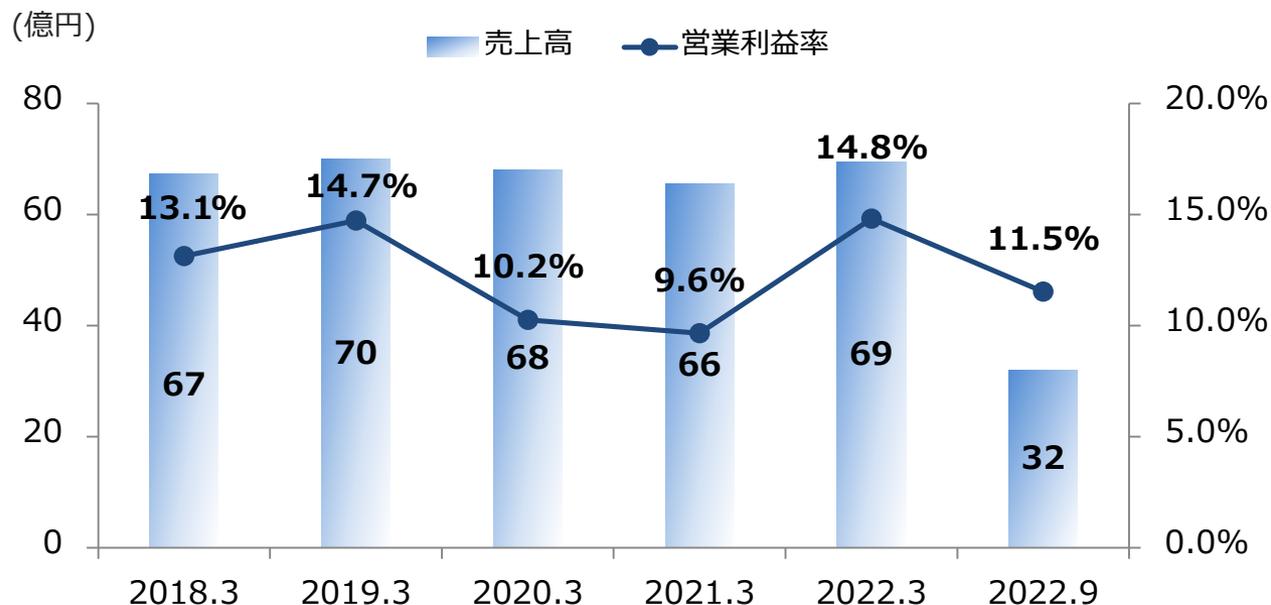
(百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	1,486	2,062	576	38.8%
営業利益	92	104	12	13.0%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、原料ニッケル価格の高騰と価格改定により、増収となった。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前期から続く海外向け大型物件の出荷が当期も寄与し、増収増益となった。

## 受託加工



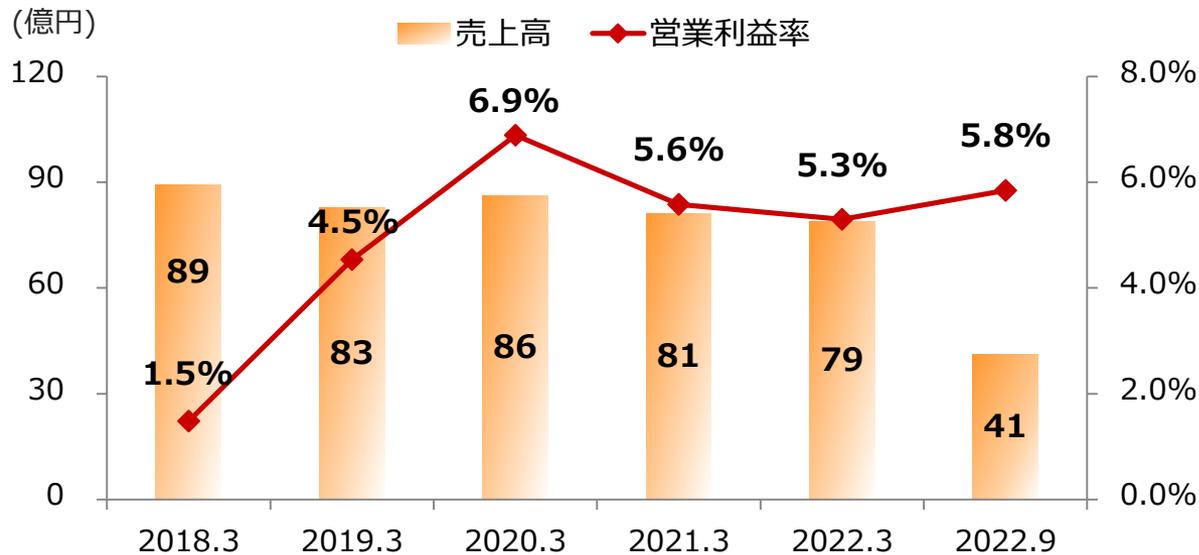
●前年同期比較

(百万円)

	2021.9	2022.9	増 減	
売上高	3,589	3,129	▲ 397	▲ 11.1%
営業利益	615	368	▲ 247	▲ 40.2%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- 加工顔料は、中国ロックダウンの影響や、前期に比べ自動車関連を中心に低調に推移し、減収減益となった。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、収益性の高い受託品が今期は低調となり営業利益率も低下し、減収減益となった。



● 前年同期比較 (百万円)

	2021.9	2022.9	増減	
売上高	4,097	4,122	25	0.6%
営業利益	233	240	7	3.0%

## 2023年3月期第2四半期のポイント

- バリウム造影剤は、コロナ禍の健診減の影響を受けつつも、韓国を中心に輸出向けが伸びたため、増収となった。
- 「アルロイドG」は、薬価引き下げの影響を受け、減収減益となった。
- 医療機器は、内視鏡洗浄消毒器が半導体不足の影響で販売台数が減少したが、電解促進剤などの機器関連製品の価格改定前の先取り需要もあり、増収となった。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、コロナ禍以降続く罹患対策により、減収減益となった。
- 新規事業として注力中の美容医療機関向け製品（紫外線サプリメント）が好調に推移し、増収増益となった。

## 4. 2023年3月期業績予想

---

# 2023年3月期業績予想

金額単位：百万円

	2022.3		2023.3					
	通期実績		上期実績		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		対前期比
売上高	80,135	—	42,694	—	42,306	—	85,000	6.1%
営業利益	7,494	9.4%	3,267	7.7%	2,233	5.3%	5,500	▲26.6%
経常利益	8,840	11.0%	3,830	9.0%	1,970	4.7%	5,800	▲34.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,747	8.9%	2,871	6.7%	1,329	3.1%	4,200	▲37.8%

下半期は、上半期に引き続きさらなる値上げを実施していく予定であるが、以下理由により、各利益は上期実績より鈍化する見通し。

## 【営業利益】

- ① 原燃料価格の更なる高騰
- ② 半導体市況の減速で、前期好調であった電子材料の販売減。
- ③ 内外景気の低迷により、想定していた販売量の低下

## 【経常利益】

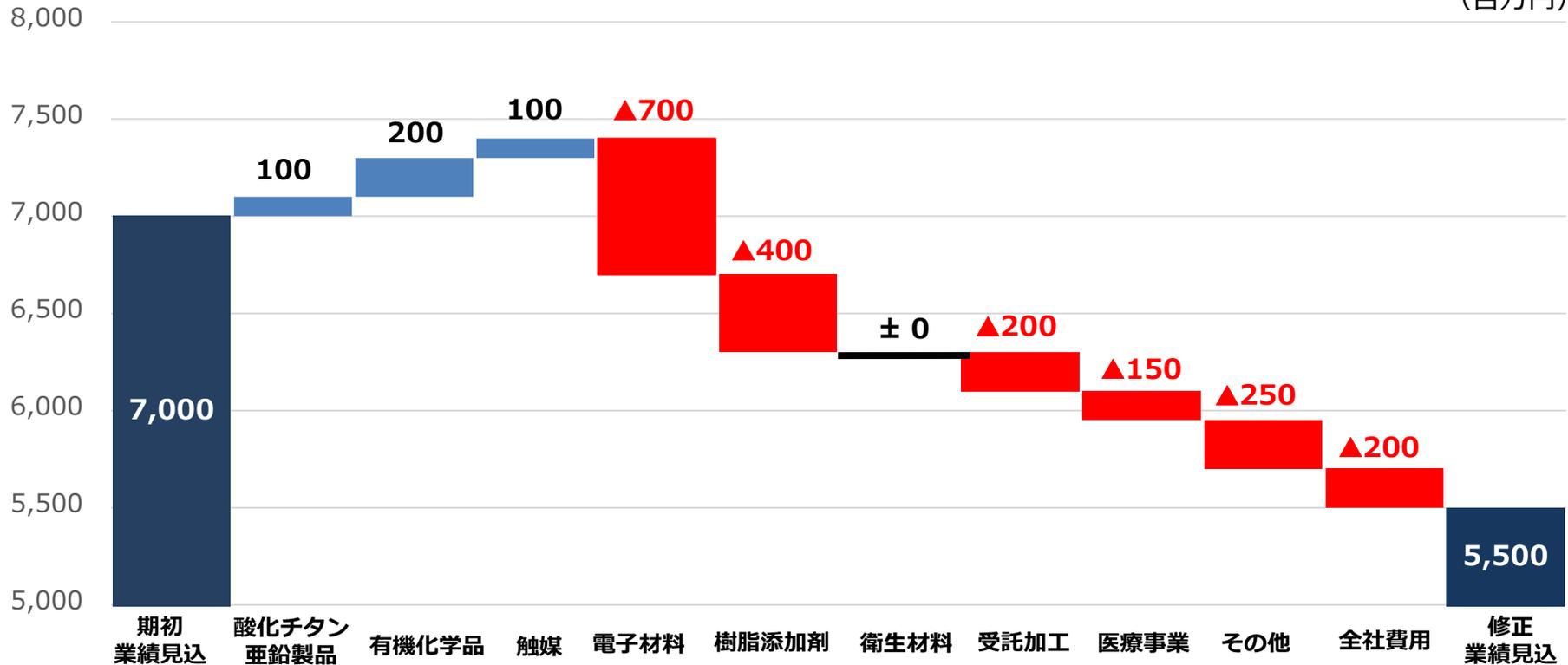
営業外収益として、為替差益の減（今上期は、497百万円計上）

## 【当期純利益】

特別利益として、受取保険金の減（今上期は、379百万円計上）

# サブセグメント別営業利益増減見通し（概算値）

(百万円)



## 【プラス面】

- ・化粧品材料：需要期に入る
- ・有機化学品：堅調な需要に支えられる。

## 【マイナス面】

- ・電子材料：民生向けを中心とした半導体市況の鈍化
- ・前期末在庫による恩恵の消失
- ・原燃料価格の更なる高騰
- ・医療：半導体不足による内視鏡洗浄機器販売の不振

# 設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

金額単位：百万円

	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2022.9	2023.3
設備投資	3,771	6,891	8,403	9,567	5,967	1,319	3,000
減価償却費	3,005	3,189	3,686	4,243	4,331	2,193	4,500
研究開発費	3,217	2,951	2,898	2,487	2,376	1,366	2,500

(予想)

## ・設備投資

2019年度・2020年度は、電子材料と化粧品材料分野を中心に戦略投資を実施し大きく増加。現在のところ、今期以降の大型投資の予定はない。

なお、維持・更新にかかる投資が当初の予定よりも少なくなる見込みの為、期初予定より1,000百万円減額の、3,000百万円となる見通し。

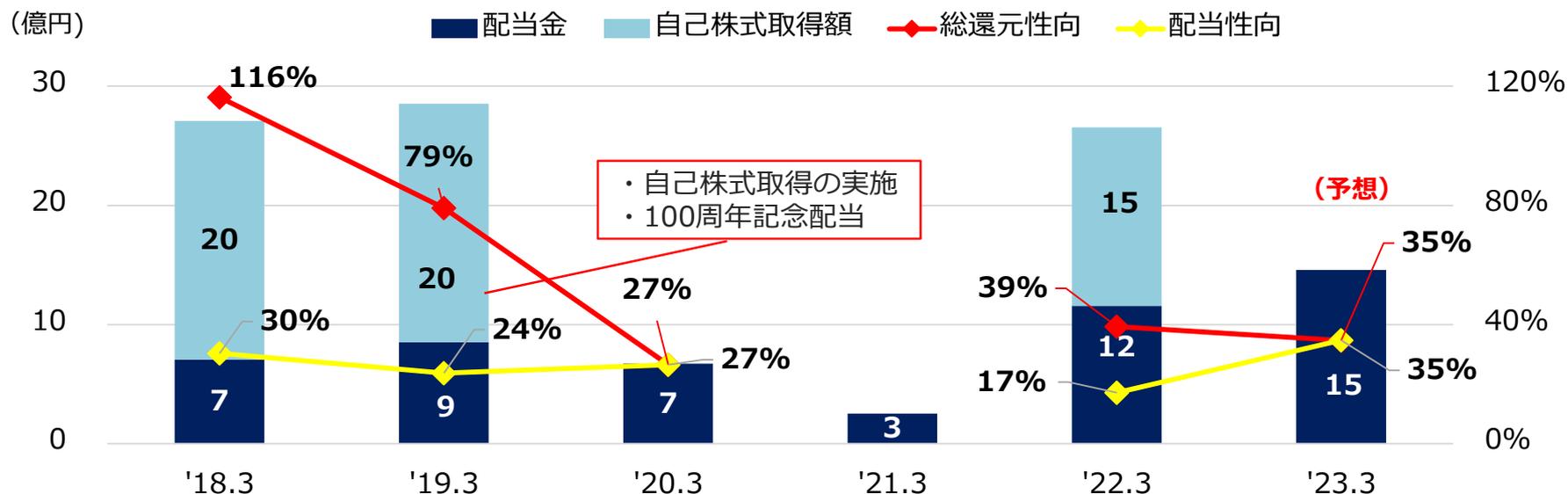
## ・減価償却費

上記戦略投資に関する減損損失7,041百万円を2020年度末に計上したため、減価償却費は増加しない。

# 5. 株主還元

---

# 株主還元



## 【剰余金の配当の基本方針】

**配当性向30%以上を目安に利益還元を実施（2回／年）**

## 【2023年3月期について】

1株当たり**年間90円（中間45円、期末45円）**の配当を実施（見込）

**（\*年間配当を、前年度比20円の増配）**

# 質 疑 応 答

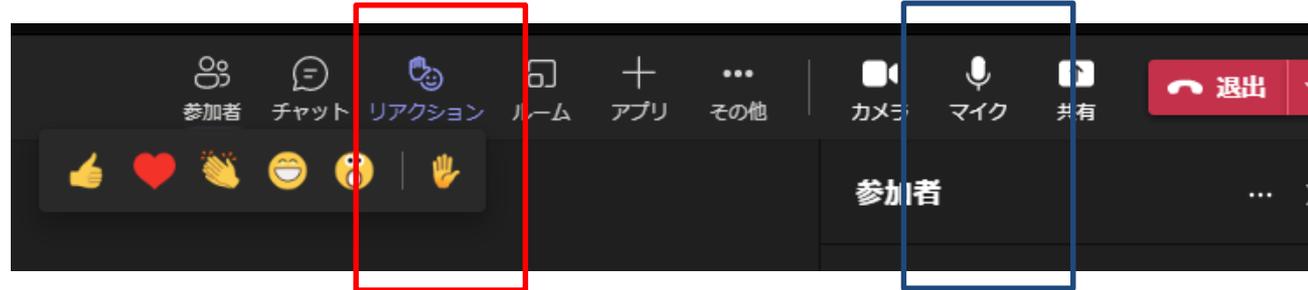
## ■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

\* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

\* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

## ■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- ご質問者は事務局より**マイクミュート**を解除しますので、ご発言を開始してください。（※その際お名前をお呼びすることになります。当社HPに公開する書起しではお名前を伏せますが、アナリスト協会様での公開分では、お名前は公開されます。その旨、ご了承ください。）
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

# 参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



# 堺化学工業(株) 会社概要

本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	128,362百万円
純 資 産	85,803百万円
関係会社	連結子会社16社（国内8社、海外8社）
従業員数	連結2,031名／単体776名（2022年9月末現在）

# 当社グループについて

## 化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

SC有機化学(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

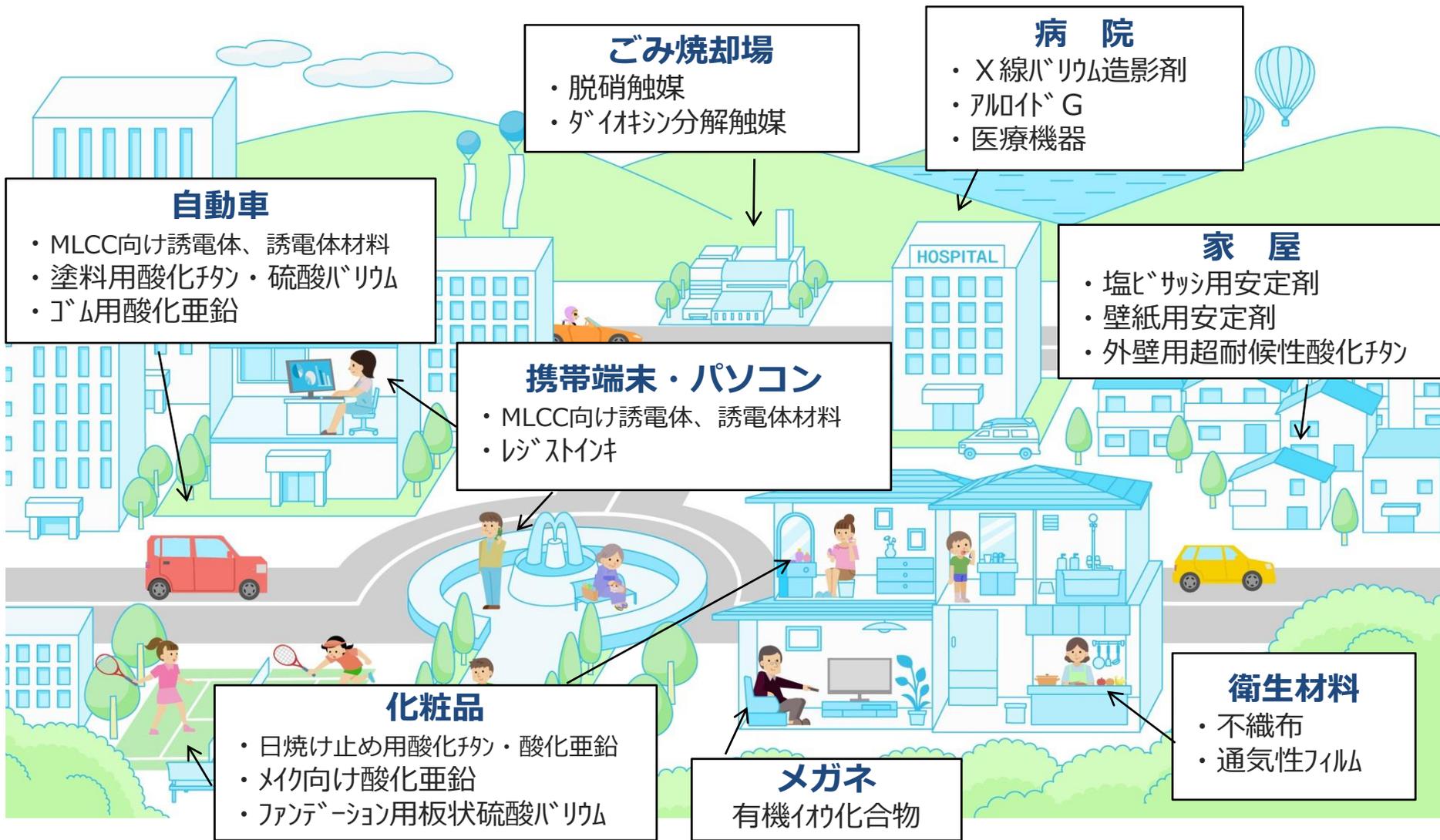
## 化 学【販 売】

堺商事(株)

## 医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

# 暮らしに息づく当社グループ製品



# 事業内容と売上高構成

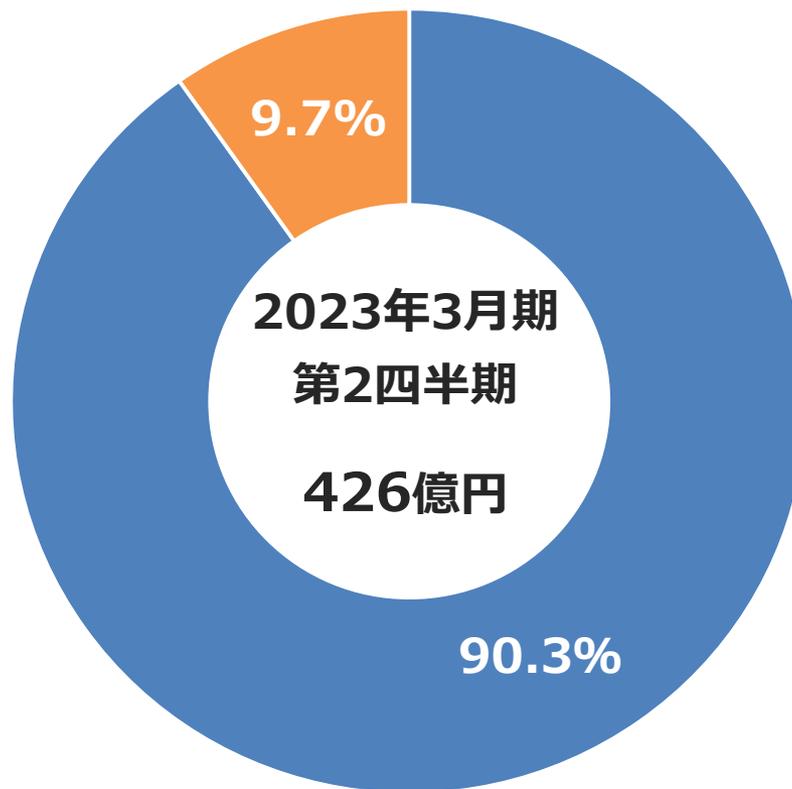
## 医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



## 化学

天然鉍石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。

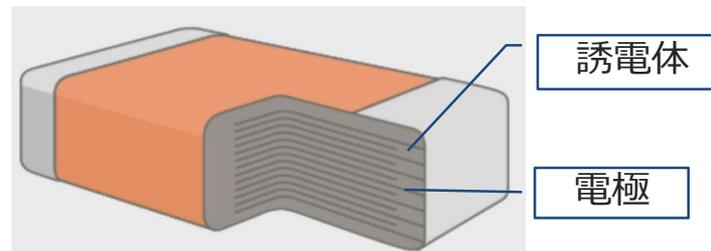


# 事業の紹介 <化学>

## 電子材料

### 積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛ともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

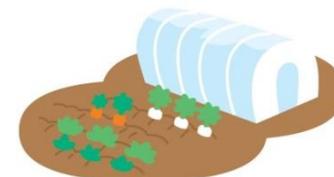
- ・ 塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤
- ・ ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や  
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介 <化学>

## 衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに  
使われています



## 有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、  
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに  
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



# 事業の紹介 <化学>

## 触 媒

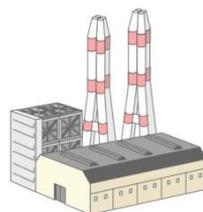
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。



こんなところに  
使われています



## 受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



# 事業の紹介 <医療>



## カイゲンファーマ(株)

### X線バリウム造影剤

…消化管撮影



1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。

### 医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器



バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。

### アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



### 一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

# 化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

		2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2022.9
電子材料	売上高	8,033	8,948	8,499	9,723	10,857	4,956
	営業利益	969	651	117	23	1,700	753
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	15,758	16,341	15,305	13,563	15,718	8,945
	営業利益	624	304	610	518	1,046	565
樹脂添加剤	売上高	11,934	12,745	12,583	11,543	12,489	6,712
	営業利益	529	248	169	397	966	312
衛生材料	売上高	8,558	8,006	8,070	9,254	5,388	2,652
	営業利益	100	246	174	440	331	136
有機化学品	売上高	5,979	5,919	6,172	6,882	7,321	4,383
	営業利益	548	828	1,271	1,476	1,639	939
触 媒	売上高	3,427	4,257	3,703	3,210	3,644	2,062
	営業利益	89	289	26	▲ 82	190	104
受託加工	売上高	6,721	7,000	6,811	6,550	6,947	3,192
	営業利益	882	1,031	698	632	1,029	368
その他	売上高	17,218	18,040	17,412	16,079	9,875	5,666
	営業利益	800	432	356	447	170	▲ 153
合 計	売上高	77,628	81,256	78,555	76,821	72,243	38,572
	営業利益	4,541	4,029	3,421	3,851	7,076	3,026

注：営業利益から本社部門費を差し引いた値です。

# 化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

	2021.3				2022.3				2023.3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	18,880	17,419	19,904	20,618	17,695	18,113	17,544	18,890	19,455	19,116
電子材料	2,261	2,264	2,542	2,655	2,660	2,426	3,144	2,627	2,685	2,271
酸化チタン・亜鉛製品	3,332	2,897	3,517	3,817	3,928	3,563	3,920	4,307	4,555	4,390
樹脂添加剤	2,765	2,551	3,066	3,162	3,090	3,118	3,148	3,132	3,281	3,430
衛生材料	2,337	2,411	2,200	2,306	1,283	1,223	1,503	1,379	1,225	1,426
有機化学品	2,162	1,300	1,584	1,837	2,250	2,171	1,089	1,810	2,172	2,211
触媒	645	837	1,033	695	661	824	961	1,197	910	1,151
受託加工	1,403	1,539	1,780	1,828	1,849	1,739	1,618	1,740	1,704	1,487
その他	3,975	3,621	4,182	4,318	1,974	3,046	2,160	2,698	2,919	2,747
営業利益	967	387	1,267	1,230	2,111	2,012	1,452	1,501	1,736	1,289

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

# カイゲンファーマの製品別売上高推移

金額単位：百万円

	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2022.9
バリウム	2,327	2,265	2,291	2,043	2,173	1,046
アルロイドG	860	990	1,221	1,193	1,167	550
医療機器	2,290	2,373	2,445	2,453	2,611	1,371
一般用医薬品	1,463	1,190	1,144	1,026	812	381
その他	1,645	1,608	1,722	1,557	1,420	773
合 計	8,585	8,426	8,823	8,272	8,185	4,285

# ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、2021年3月期以前の化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。